第２章　地域別計画（案）

第1節　地域別計画の目的

第２次香美市振興計画において、「市街地ゾーン」「田園環境ゾーン」「自然活用ゾーン」「大自然ふれあいゾーン」に区域が設定されていましたように、市内にあっても地域によって環境や抱える課題は異なっています。

分野別計画では、網羅的に施策の実施根拠や内容を掲載してきましたが、地域別計画は、人口動態や地域特性を基準に新たに４つの地域に区分し、各地域で展開する主な施策を掲載します。

本計画は、既存の施策を地域特性に合わせて再構成し、分野横断的に整理することで、市民の皆様が計画書を自分ごとして読んでいいただくことで、市民と行政が一体となって地域づくりを推進することを目的としています。

第2節　4つの地域区分

地域（区域）名	地域（区域）の説明
市街化区域	都市計画法における市街区化域を指し、住宅や商業、工業等の誘導を図る地域
市街化調整区域	都市計画法における市街化調整区域を指し、一定のまとまった集落が形成されており、農業振興を図りつつ、一部のエリアでは地区計画制度を利用した商業施設や工場等の立地を促進する地域
中山間中核地域	都市計画区域外の地域で、生活サービス施設、医療機関、公共施設等が比較的集まっている地域 ※該当地区 香北町（韮生野、美良布、下野尻、太郎丸）、物部町（大栃）
中山間集落地域	上記３つ以外の地域で、主に山間地域に位置しており、人口の減少や高齢化が著しく生活機能が乏しく、集落機能の維持が困難となりつつある地域

参考（2016 年 4 月と 2026 年 4 月の住民基本台帳上の人口）

	2016 年 4 月	2026 年 4 月	増減数	変化率
市街化区域	10,451 人	10,656 人	205 人	1.96%
市街化調整区域	8,694 人	7,595 人	-1,099 人	-12.64%
中山間中核地域	3,198 人	2,648 人	-550 人	-17.20%
（大栃除く）	2,255 人	2,014 人	-241 人	-10.69%
中山間集落地域	4,400 人	3,134 人	-1,266 人	-28.77%
※中山間集落地域における旧町村別の変化				
土佐山田町	908 人	649 人	-259 人	-28.52%
香北町	2,419 人	1,842 人	-577 人	-28.85%
物部村	1,073 人	643 人	-430 人	-40.07%

中核地域の香北町エリアより、調整区域の人口減少割合が大きい。

集落地域の人口減少割合は、山田、香北で差がない。

第3節　市街化区域

地域特性

本地域は、交通結節点である JR 土佐山田駅を核とした、住宅・商業・行政サービス機能が高密度に集積する本市の中心市街地です。市域の多くを中山間地域が占める中で、市全域に占める面積割合 1%未満の区域に人口の約 45%が居住する最も都市的な地域となっています。

直近 10 年間（2016 年～2026 年）の人口推移は横ばいを維持しており、高知市圏の利便性の高い居住地として、また本市の持続可能性を支える地域として、今後も都市機能の維持・強化を図るべき地域です。

地域の課題と主な施策

本地域は、ベッドタウンとして一定の人口が維持されているものの、商業的施設や若年者の雇用先が少ないことが課題となっています。中心商店街の活性化も長年の課題となっており、域内経済の拡大が必要となっていることから、商業振興分野の施策を特徴的に展開していきます。

①　中心市街地の活性化

消費行動の変化により、中心商店街の賑わいが失われており、空き店舗、低未利用地の活用に取り組んでいきます。

【関連する施策の内容】「魅力ある商店街の形成」「地域電子マネーkamica の普及」「市街地の整備」

②　域内の公共交通の充実

あけぼの街道沿いに店舗が進出するなど商業エリアが分散してきており、自家用車を持たない高齢者等への備えとして公共交通を充実させていきます。

【関連する施策の内容】「市営バスの運行」

③　若年者の雇用先の確保

若年者の就職先が少なく、本市には高知工科大学があるものの、卒業生の多くは市外で就職する状況にあることから、ICT 企業を中心とした企業誘致や創業支援を進めていきます。

【関連する施策の内容】「企業誘致」「創業支援」

第4節　市街化調整区域

地域特性

農地や山林だけではなく、まとまりのある集落が分布する生活の場でもあり、市街地と農村や自然環境をつなぐ役割を担っている地域です。高知工科大学や中学校、小学校といった教育施設に加えて、多くの県有施設がこの地域に存しています。

市全域に占める面積の割合は約 6%で、人口の約 30%がこの地域に居住していますが、土地の開発が抑制されていること、農業従事者の減少と高齢化が進んできたことにより、人口減少と高齢化が進んで

きています。

地域の課題と主な施策

市街化調整区域の多くは農業の振興を図るべき地域とされており、土地の開発が抑制されています。一方で、農業従事者の半数以上が 60 歳を超えており、持続的な農業生産体制を維持していくため、新規就農者の確保が喫緊の課題となっています。

新規就農者の確保・育成は農業振興に留まらず、人口減少や耕作放棄地の発生や田園景観の悪化といった多く問題解決につながることが期待されることから、この地域では、農業振興、特に施設園芸農業の振興を特徴的に展開していきます。

①　農業の振興

持続可能な農業とするためには、農作物の付加価値と生産性を高め、稼げる農業を確立していくことが必要です。

やっこねぎなど、これまで築きあげてきた特産物のブランドの維持のほか新規就農者への支援、施設園芸農業への補助、集出荷場施設等の整備・改修の支援を行い、生産体制の強化を図っていきます。

【関連する施策の内容】「ブランドの維持、向上」「新たな担い手の確保と育成」

第5節　中山間中核地域

地域特性

都市計画区域外にあって、生活サービス施設、行政・公共施設、観光施設が比較的集まっており、周辺地域の生活を支える中核的な役割を果たしています。

今後も周辺地域と一体となった持続可能な生活圏の形成を図るべき地域となっています。

地域の課題と主な施策

大栃地区を除くと人口減少のペースは、市街化区域に次いで緩やかな状況にあるもの、減少傾向は続いており、周辺地域を含めた地域の生活を支えていくための生活機能を維持していく施策を特徴的に展開していきます。

①　生活機能の維持

地域で安心して暮らし続けるには、必要なときに医療や介護サービスにアクセスできる環境が欠かせません。物部町地域の医療体制の要である市立大栃診療所及び市立物部歯科診療所の維持及び採算面で不利である中山間地域における介護事業者への財政的な支援に取り組みます。

また、地域の拠点である大栃小中学校の生徒数を確保するため、市営住宅を教育移住家族向けの滞在住宅として活用します。

【関連する施策の内容】「中山間地域における介護サービスの確保」「香美市立診療所の設置及び管理」
「市営住宅の有効活用」

第6節　中山間集落地域

地域特性

市域の約 80%を占める広大な中山間地域に小規模な集落が点在し、農林業や自然資源を活用した暮らしが営まれてきました。

一方で、直近 10 年間で人口は約 30%減少しており、全国平均を大きく上回るペースで人口減少が進行しています。結果、集落機能の維持が極めて困難な局面を迎えており、生活インフラの確保や今後の集落のあり方を考えていく必要があります。

地域の課題と主な施策

一部の集落では人口が一桁となるなど、集落機能の維持が限界に達しつつあります。また、生活サービス施設や医療機関、公共施設等が域外に存していることから、高齢者や支援を要する住民が安心して住み続けられる環境の維持が大きな課題となっています。

基幹産業である農林業は、担い手不足や生産基盤の弱体化が進行しており、生業と多面的機能の喪失が懸念されています。

① 生活サービス施設や医療機関、公共施設等へのアクセス確保

運転免許を保有しない世帯や、加齢に伴い免許を返納した高齢者の生活サービス施設等への移動手段として、公共交通の充実に取り組んでいきます。

山間地域における地域住民の生活を支える移動販売事業者を支援していきます。

【関連する施策の内容】「移動販売の事業者支援」「市営バスの運行」

② 集落機能の維持

人手不足のため維持できなくなる生活インフラの管理や日常生活上の困りごとの把握、行政との連絡調整を担う地域づくり支援員を配置していきます。

また、関係人口の創出・拡大を図り、地域における人手不足の緩和につなげていきます。

【関連する施策の内容】「集落機能の維持」

③ 林業の振興

地域の主産業である林業を持続可能なものとするため、生産基盤の強化や担い手確保に取り組んでいきます。

【関連する施策の内容】「森林の育成・管理の推進」「木材の生産と活用」
「担い手・後継者の確保と育成」「林業経営基盤の強化」「林道の整備」
「有害鳥獣被害対策の推進」

④ 農業の持続性の確保

中山間地域における農業の継続と耕作放棄地の発生防止を図るため、中山間地域等直接支払交付金を活用し、農地・農業用施設の保全管理に取り組む体制を維持していきます。

【関連する施策の内容】「農業生産基盤等の整備、維持及び保全」